

○ 事業の概要

1. 事業名

令和4年度（2022年度）地域生涯学習活動実践交流セミナー

2. 開催日時

令和5年（2023年）2月9日（木）9:50～17:00

令和5年（2023年）2月10日（金）9:30～12:00

3. 開催場所

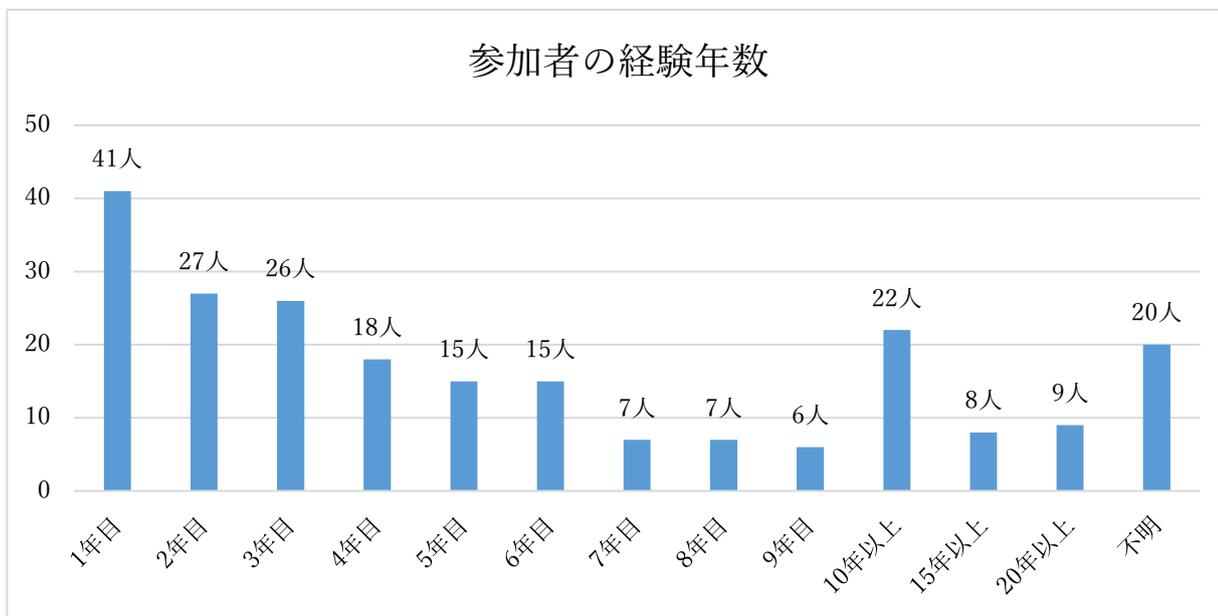
かでの2. 7（札幌市中央区北2条西7丁目） ホール、730, 1030, 1040, 1070

基調講演のみオンライン配信（zoom）

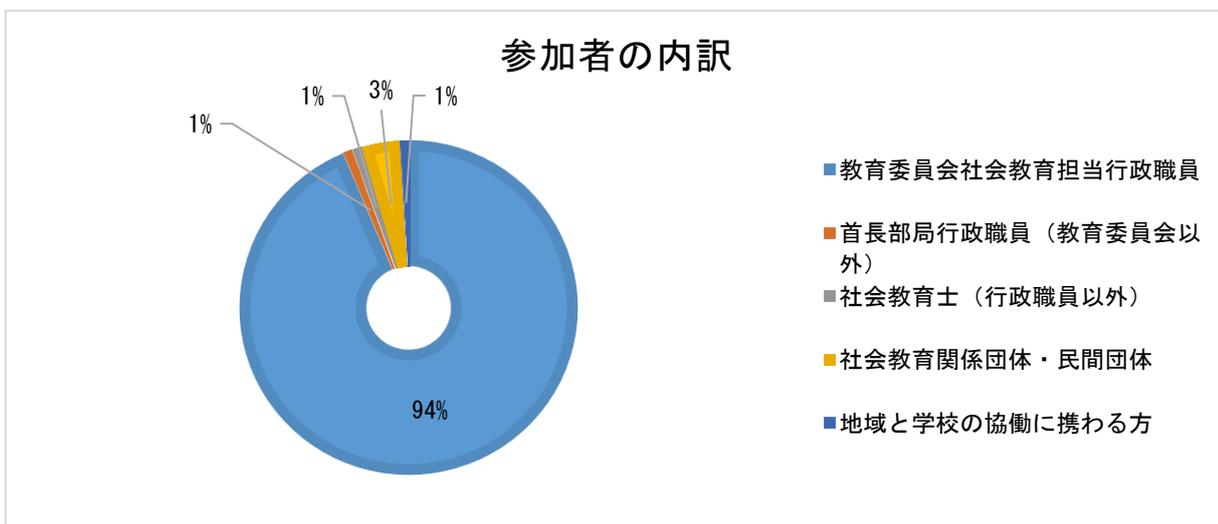
4. 参加人数

221名

5. 参加者の社会教育、生涯学習に携わっている経験年数



6. 参加区分



7. プログラム

1 日 目	9:50～10:10	開会・説明	開会挨拶／セミナー概要説明
	10:20～12:10	事例発表①～③	14管内の事例発表
	12:10～13:20	休憩・情報提供	
	13:20～13:50	事例発表④	14管内の事例発表
	14:00～15:30	基調講演	「地域の担い手づくり・地域づくりの視点」 講師：NPO法人教育支援協会代表理事 吉田 博彦 氏 studio-L 代表 山崎 亮 氏
	15:45～17:00	分科会①	事例発表・基調講演を踏まえて、自分のまちの担い手育成や学びの機会のあり方を振り返り、グループで共有し、今後のアイデアや取組について整理する。
2 日 目	9:30～11:00	分科会②	事例発表・基調講演を踏まえて、自分のまちの担い手育成や学びの機会のあり方を振り返り、グループで共有し、今後のアイデアや取組について整理する。
	11:10～11:45	全体交流	分科会の協議・交流での気づき
	11:45～12:00	閉会	閉会挨拶、次年度のテーマ発表

(1) 事例発表 10:20～13:50

	道北ブロック 1040 会議室	道東ブロック 1070 会議室	道南ブロック 1030 会議室	道央ブロック 730 研修室
10:20 ～10:50	宗谷管内 「稚内市子育て推進協議会の活動について」 稚内市教育委員会 野口 碧月姫	釧路管内 「鶴居びと育成事業～次世代へ繋げるイルミネーション～」 鶴居村教育委員会 吉田 綾稀	渡島管内 「地域学校協働本部の取り組み」 知内町教育委員会 堂前 哲也	空知管内 「芦別市地方創生塾について」 芦別市教育委員会 高島 巖夫
11:00 ～11:30	上川管内 「上川中部ブロックの取り組みについて」 鷹栖町教育委員会 山本 裕太	十勝管内 「全町教育を通じた大人の自分育ての促進『しんとく全町教育』の紹介」 新得町教育委員会 高尾 圭斗	檜山管内 「社会教育関係団体と協働するための行政のあり方、関わり方」 上ノ国町教育委員会 高谷 将拳	
11:40 ～12:10	留萌管内 「コロナ禍におけるオンラインによる社会教育活動」 留萌市教育委員会 峨家 知広	オホーツク管内 「コロナ禍の青少年体験活動」 置戸町教育委員会 渡部 光一	日高管内 「日高管内青少年体験活動推進事業『ひだか未来塾』の実践」 様似町教育委員会 新出 拓海	石狩管内 「当別町小中高大生 TOWN ミーティング」 当別町教育委員会 下村 兼生
13:20 ～13:50		根室管内 「しべつ未来塾による地域づくり活動の展開」 標津町教育委員会 竹村 勇一	胆振管内 「パークゴルフ体験講座で健康増進」 白老町教育委員会 長尾 拓哉	後志管内 「未来の担い手を育成するために」 共和町教育委員会 村山 弘樹

- ・研究テーマに沿った実践について、全14管内が発表
- ・共通書式・実践報告書を配布資料とし、必要に応じて補足等の資料を追加
- ・会場設営から進行・記録も含め、各管内で運営・実施

○実施状況

- ・各事例発表ともに、多くの参加者が発表を聞き、積極的に質問する様子が見られた。

【質疑応答の一部抜粋】

空知管内

- 何名ぐらいで行っているか。高校生の参加のきっかけは？

→R2は12名、R3は20名、R4は授業として実施し13名。R2、R3は先生の声掛けにより希望者を募った

- メニューに芦別産のものは使ったか。

→市内のサクラノボ園のジャムや市内産の蜂蜜を使用した。

- 学校との交渉の工夫は？

→行政（市長）から学校に地方創生塾を持ちかけている。はじめは、高校生がやるのはきついと難色を示したが、行政の強制ではなく、高校生のテーマで実施するという説明を重ね、了承を得た。

石狩管内

- 子どもたちが町や地域の方に発表する場はあるか。
→事業の最後に教育長に発表している。地域に向けてというのではないが、スーパー等で掲示の協力がある。
- グループ分けは同世代でしているのか。
→異年齢でグループ分けをしている。
- 参加者がまちづくりに関わっている例はありますか。
→2人役場の職員になっている。
- リーダーのスキルアップで意識していることはあるか
→話し合いをまとめやすくする方法を教える。うなずく、否定しないなど。
- 学校が社会教育事業に協力的でないときどうしているか。
→反対されることが多い。何度も説明し、運営資料を見せて理解してもらう。



胆振管内

- 僻地に住んでいる方の参加はあったか。
→参加していた。
- （質問者の）当町も広い地域なので、離れた地区に住んでいる方の参加は課題。
→今回の場所は街中にある。次回は別の場所で実施したい。
- 58人の参加とのことだが、初心者率はどれくらいか。初心者を集める工夫は？
→初心者は5割ほど。少し経験している人は1割。未経験者4割といったところ。集客は、顔を見せて周知を行った。（つながり）
- 他部署との連携について、他に何かやっているか。
→子育て関係くらいで、あまりやっていない。この事業をきっかけに防災に関するセミナー等連携が生まれた。

日高管内

- 学校教員が参加すると、どういう点で有意義なのか。
→教員との熱量の差を埋められる。
- 複数町との連携をしていると思うが、打合せ等はどのようにしているのか。
→3ヶ月前からオンラインで講師と打合せをした。その後、対面であう機会があったので、対面でできた。
- 各町の中高生の選抜方法は？
→各町3～5名の生徒会メンバーに来てもらっている。（各町で集めている）
- 久しぶりの開催と思うが、良かったところは？
→参加者同士が対面で会話・交流することができたこと。
※教員も数名参加している。
※一つのエリアだと、限られたメンバーになりがちだが、管内規模でできるのは良い。

渡島管内

- CSと地域学校協働活動の関係は？
→CSの委員と地域学校協働活動本部のコーディネーターが兼職で務めているので連携できている。
- 人材バンクを増やすのに声掛けの工夫が必要か。
→難しいところ。現場に足を運んで声掛けをしている。電話一本ではだめ。

檜山管内

- 昨今は生活の多様化が進み、参加者・運営者との日程調整が非常に難しくなっているように思う。何を基準に日程調整をしたのか
→(株)日本ハムファイターズ側のスケジュールが限られていたため、そちらの都合を優先して調整し、毎年実施している町の行事をそちらに合わせた。その他の年度では例年9～10月に実施していた。実行委員会では町内の行事との兼ね合いも考慮していた。
- 町内会へのアプローチとは、具体的にどういった手法を取ったのか。
→高齢者サロンや生涯学習出前講座などで繋がりを持っており、その中で声掛けをするなどしている。ほかに、女性団体にも炊き出し等の協力を依頼し、様々な団体に協力してもらっている。
- 事業に対する熱量が高ければ団体に任せればよいが、実際にそうしていくためにはどうすればよいか。
→「〇〇をやります」といったときについてきてくれる方は少なからずいる。そのついてきてくれる方を味方にし、切り口にすることが大切だと思う。

- 事業を中止した後に自主性が生まれたとのことだが、その後はどうなっているのか。
→例年、事業の実施時期が決まっているので、そこから逆算して実行委員会を実施しているが、もっと内容を詰めたので早めにやろうというふうになっている。
- 担当職員と実行委員会の距離感で意識している点は。
→団体事務局を教育委員会で持っているところもあると思うが、近すぎず、離れすぎずというバランスを大切にしている。人を見ながら距離感を変えるのも大事だと思う。教育委員会の姿勢としては、事務局は持てませんという一線を敷いたうえで、協力・助言は惜しまない姿勢でいる。
- 職員として在任期間（経験）が長い方が地域とのつながりを構築しやすいということによいか。
→長くいた方が絶対に良いと実感している。

上川管内

- 鷹栖町の事業で、保護者向けの自己肯定感要素を組み込んだが、事前にやったのか、事後の保護者の反応は？
→10日前にアンケートを採って、自己肯定感の理解度を確認した。事後アンケートも実施し、「参加して良かった」との声もある。その声を基に、チラシを作成し、参加者以外へのアプローチ材料とした。
- 今回の変容についてどう捉えているのか。
→全体としては、まだ検討中。
- 鷹栖町の事例で、参加しなかった人には、どうアプローチしていく予定なのか。
→生活習慣プロジェクトでアンケート調査をして、各課にフィードバックして、チラシを作成しアプローチしていく。

留萌管内

- オンラインの講師対応について、講師の受諾、選定、接続方法などはどうか。
→事前にオンラインで打ち合わせし、事前に不安を解消する。講師の選定も事前に会議等で決定した。

オホーツク管内

- 公民館でeスポーツに取り組んでいるとのことだが、運営方法は？
→eスポーツは、長期的な視点だと教委で行うと、うまくいかないケースも多いらしいので、子ども会の行事として行うことで、継続性を持たせたい。機材は町民の持ち寄りで実施した。
- 対象を小学校高学年としているが、どのくらいの児童数が出て、参加者数は？また、どのような工夫をして、参加者を集めているのか。
→全対象者は60名くらいで、登録は20名。参加するのは18名くらい。年間メニューを自分たちで決められることを売りにしている。
- コロナだから始めたことについて、今後はどうしていくのか。
→今までどおり行うのではなく、形を変えたり町民主体で実施したりと変化していくと思う。
- 社会教育と産業が上手につながっていると思う。きっかけや今後は？
→ラフティングに関しては、追い込まれて、保護者などを指導者セミナーに参加してもらった。その人たちが、産業課などに、町の産業として活かさないか言ってもらっている。うどんは、コロナ前からイメージはあったが、進んでいなかったものを、大人・子ども、それぞれを対象とした講座を開催し、ムーブメントを一気に創っていった。

十勝管内

- まちの先生には、どんな人・団体があるのか。具体例を知りたい。
→花育、木育
- 人口比どれくらいの参加率か。
→小学生はコロナ前も低学年中心で、全町の5割が参加している。
- 教育委員会の役割は？
→ワークショップの講師依頼・調整
- フロアカーリングの他市町村との関わりは？
→全道大会開催、講師派遣、普及目的が中心
- 高校生との関わりは？
→教育まつりには関わっていないが、他の事業には、高校生も関わっている。
- 全町教育まつり以外の取組は？
→夏休みなかよし学習塾



●まちの先生登録に審査はあるのか。

→特別審査はないが、初めての人には他の企画に関わってもらってからにしている。

●大人の学び合いの機会は？

→教育まつりは、本来大人も対象である。協議会に部会があり、様々な活動をしている。

釧路管内

●参加者で、自分事になっていない人をどう巻き込んでいくのか。

→参加者の声を届け、さらに意欲を向上させていく。

●イルミネーションじゃない手段、それを考える場や空気は？

→商工会などは、まずイルミネーションで盛り上がりたい。今は、土台作り。ゆくゆくは季節ごとに何かできればいい。

根室管内

●未来塾と教育委員会の関わり方、3年と長い、モチベーションはどうか。

→事務局が行政。同じ人がやることもあり、長くいる人のモチベーションは低い。これからは、高校生等若い人の参入が課題。

(2) 基調講演 14:00～15:30

「地域の担い手づくり・地域づくりの視点」

講師：NPO法人教育支援協会代表理事 吉田 博彦 氏

studio-L 代表

山崎 亮 氏

全道の研究テーマ「地域づくりの担い手育成に向けた行政と住民の連携・協働」について、4カ年にわたり全道の実践を重ね、行政の役割を洗い出してきたが、課題山積の社会を立て直していくためには、もう一度、社会教育行政がどういう視点で地域の担い手づくり・地域づくりを進めていくべきなのかを見つめ直し、社会教育を振興していく考え方を再確認することが必要である。

そのため本基調講演では、日本初の教育に係るNPOの立ち上げに関わってこられた吉田博彦先生とコミュニティデザイナーとして、多くの地域づくり・つながりづくりを推進してこられた山崎亮先生に参加者からの質問や意見を元に対談形式でお話しいただき、考え方や推進の示唆をいただきました。

<はじめに>

○社会教育は、「地域づくり」。

○人と人との関係性がないと、「地域づくり」はうまくいかない。

○学びがない話し合いはない。地域の人たちが学びながら話し合っただけで地域づくりを進めていくことが重要。

○「地域」の定義について

・コミュニティデザインでは、小学校区をイメージする。これは、町内会だと狭すぎて、中学校区だと広すぎてできないことが多くなってしまったため。

・人により、行動範囲が違うので、「地域」の捉えは一人一人ちがう。

・地域の人々がどう捉えるかによって進めるとよい。

・人と人、人と空間の関係性が重要。

○勉強嫌いの子どもを育てるのはやめて欲しい。新しいことを学ぶのはワクワクするという印象をもたせれば、大人になっても学び続ける人になる。



<コロナ禍における対応>

○それまでは、三密を重視してワークショップをやってきた。

○コロナ禍では方法を変えなければならなくなった。

・オンラインでの実施 → オンラインで参加できない人には参加の方法を伝える。

○集まることができない状況に、「まいったな」で何もしないと何も変わらない。

○北海道は、広域性を乗り越える手段としても、オンラインは必須。やろうと思えばできる。

<NPOについて>

○日本型NPOには、税の優遇措置がないなど、メリットはない。

○一財や株式会社などでも、活動できる。

<北海道の地方創生>

- 大都市に労働力が集中する。
- 年少人口が激減し、高齢人口比が高くなる状態。
- 高齢者が問題という考え方が問題。障害にならないように社会の環境を変えていく必要がある。
- 考え方を改めて、動き出す人を増やしていくのが社会教育の役割。
- 消費社会の問題。
 - ・英知を持っている高齢者は、たやすくものを買わない。
 - ・商業的には、ものを買う若者に価値があるという教育をしていく。
 - 社会教育が消費社会に対抗する学びの場をつくっていく必要がある。
 - 高齢者をどう担い手にしていくのか。扱いにくい力を持っている。



<社会教育行政は何をすれば良いか>

- 無縁社会では、空間デザインだけで人と人とのつながりが生まれない。
 - 人と人がつながる仕組みづくりが必要
- 社会教育は、商業主義によって人と人とのつながりを切ってきた社会で人と人とのつながりの価値を教育していく必要がある。
- どうすれば人と人との関係を構築できるのかをイメージしながら取組を進めていく。
- 商業が活性化すると税収が増える。その税収による予算を使って社会教育を進めていくという考え方があがるが、予算が多くても、つながりが切られた中でつながりづくりを進めるより、税収が減っても、関係性がある社会の方が、効率的に社会教育を推進できる。
- 補助金など、大きな力に頼っていくのではなく、一步一步進めていく方が良い。
- 人と人との関係性の構築が社会教育の目的。
- 地元産業振興、まちのためのキーマンの連携は社会教育の役割。



- 社会をしっかりと考えて、「公平な観察者」「道徳的な人」を育てるには、対話が必要。小手先の対策ではない。
- ウェルビーイングとは、「いい感じ」ということ。お金を払わないといい感じになれない社会は何か違うのではないか。
- 阪神大震災・東日本大震災では、「絆」が大事と言われてきたが、この10年で絆はできたのか。何も変わらないのではないか。人と人とのつながりがある「よき社会」をつくるのが社会教育の役割。

(3) 分科会 (9日 15:45~17:00、10日 9:30~11:00)

事例発表・基調講演を踏まえて、グループで3つの視点を設定し、視点に基づいて、自分のまちの担い手育成や学びの機会のあり方を振り返るワークを行った。

グループは、人口規模や経験年数で構成し、経験年数が浅い人にとっては、経験豊かな人からの助言を受けて事業を見直す機会となった。

協議の様子や状況については全体会で記録者が発表し、全体に共有した。



進行者

- 杉田 舜 (恵庭市教育委員会)
- 福士 昇真 (富良野市教育委員会)
- 太田 本気 (木古内町教育委員会)
- 江口 剛 (浜中町教育委員会)

- (4) 全体会 (10日 11:10~11:45)
 コーディネーター：長岡 広之
 (北海道立生涯学習推進センター主幹)
 発表者 (分科会記録者)
 橋本 梨江 (江別市教育委員会)
 杉本 一喜 (和寒町教育委員会)
 影山 英明 (日高教育局)
 加藤 つばさ (足寄町教育委員会)



○3年ぶりの対面でのワークとなった分科会の様子や協議のポイントなどを全体で共有し、全道の社会教育関係者が今後もつながりを持ちながら取組を進めていく契機とする。

○協議で出てきた視点

- ・人と人とのつながりは大事である
- ・行政は状況を把握し、目的を明確に示すことが大事である。
- ・住民に選択させて、主体性をもたせる。やる気にさせる。
- ・社会教育とは何か考えさせられた。
- ・商業主義と戦う。商業主事に対抗できるような魅力的な社会教育事業になっているか。
- ・より良い社会を創っていくということ。
- ・担い手や人材。若者だけでなく、高齢者も貴重な人材。地域おこし協力隊
- ・対面とオンラインを使い分けていく。しかし、対面で話したいよね。参加しないを解決へ
- ・継続していくことが重要。一朝一夕にはいかない。理解者や協力者をすこしずつ増やしていく。
- ・対話やコミュニケーションを大切にし、頼り・頼られる関係づくりを目指していく。
- ・世代間ギャップ。若手は、地域のつながりを重要としていない。異世代で交流する機会が減っている。
- ・参加者が楽しい (笑顔、ハッピー、また来たい)、スタイル (町民ニーズを汲む、主体性を育む)、長期的なビジョン、フィーリング
- ・まち・地域・人づくり、オンライン ICT・想い、学び
- ・先輩たちを担い手に、地域との関係構築 (参加者増)
- ・充実感を持つ、高齢者は問題?
- ・担い手の視点、高齢者を主役にするには、多世代の交流、主体的になってもらうための事業の交流
- ・危機感、社会教育職員の役割、ICT等
- ・自分達のまちは自分達でつくっていく
- ・社会教育は衰退しているのではなく多様化している
- ・好きな事、人と人とのマッチング、コーディネートするのが社会教育
- ・そもそも社会教育の必要性分かってもらう必要がある
- ・小学生・中学生への事業の大切さ (今後の社会教育への参加を見据えた)

○各自が行っている事業に1日目の視点をいかした改善点を考えるグループワークを実施

- ・障害者を含む全市民を対象としたスポーツ体験事業について、運営に高齢者の参画がなかったので、高齢者の意見を活かした事業展開を考えていきたい
- ・高齢者が学んだことを発表する事業がマンネリ化しているが、つながりづくりになっており、マンネリ化しているということは特徴があるということなので、その良い部分を活かしていく。
- ・多くの市町村で共通して実施しているものについては、他市町村との交流で自分のまちの事業をより良くしていくことができると感じた。
- ・社会教育事業について、役所内でも理解されていないところもあるので、知ってもらうようにしていく必要がある。
- ・人との繋がりが希薄になってきている。コロナばかりが原因ではなく、社会全体がそういう雰囲気になっている
- ・課題のある事業、社会教育が長くなるとマンネリ化するので、地域の方の協力を得てほかの人のスキルを活かす、一人で抱え込まないで取り込む

- ・事業に関わった人みんなが「またやっても良いかな」と思えるようにする。
- ・住民主体！やらされている感がなくやっている、アンケートをとる、サークルにして広めていく、小学校家庭科で地域の方に入ってもらい学校地域の連携、やりがいをもってもらおう。
- ・次の事業に向けての交流、助言、事業をこなす、目的達成のための事業であって、人が入れ替わることでマンネリではなく恒例事業、参加対象が変わる。
- ・人と人とのつながり分断される世の中だが、繋がっていけば助け合う事で予算が縮小して良いまちづくりに繋がっていくのではないかな。
- ・ICT機器を使った事業の展開、運営を管理することにより、子どもたちの出欠確認やアンケートの実施等に活用する事で回収率が上がる。
- ・ニーズを明確にし、参加者が求める事業の展開。
- ・子どもたちが事業へ関わる事で循環が生まれる。
- ・人と繋がることで自分の価値を高める。人との繋がりは組織をつなげ、世代もつなげていく



(5) 次年度のテーマ発表 11:45~12:00

北海道社会教育主事会協議会会長 増田 仁 (えりも町教育委員会)



<経緯説明>

総会の決議によって特別専門委員会が設置され、各管内選出の会員や道主事会役員、生涯学習推進センター職員からなる委員で構成、これまで合計3回にわたって会議を開催してきた。その中の議論で、「学び」や「地域」を中心に考える社会教育を進めていくべきという考えで一致し、次のテーマを設定した。

【令和5年度～9年度 研究テーマ】

**「持続可能な社会の実現に向け、
地域の可能性を引き出す学びをつくる社会教育のあり方」**

今までのテーマでは、「社会教育行政のあり方」を研究していたが、今回はそこから「行政」をとり「社会教育のあり方」とした。これは行政主導から住民が主体へ、行政と住民との協働を強く意識したものである。

サブテーマについては、メインテーマとの繋がりをもたせながら、市町村における地域性や課題を踏まえ、管内主事会において検討をいただき設定することにした。これによって、各管内・市町村の課題解決にアプローチしやすい、より現実的なテーマになると考える。

この研究テーマは、検討委員をはじめ、道主事会会員すべての力をあわせて考えたものなので、各管内主事会及び市町村において、実践を通じて研究を深めていただきたい。

○ 成果と課題

○参加者アンケートをもとに、成果と課題を整理する。

参加者アンケート回収率 36.7% (回答数件 81/参加者数 221 名)
参加者アンケート実施方法 フォーム

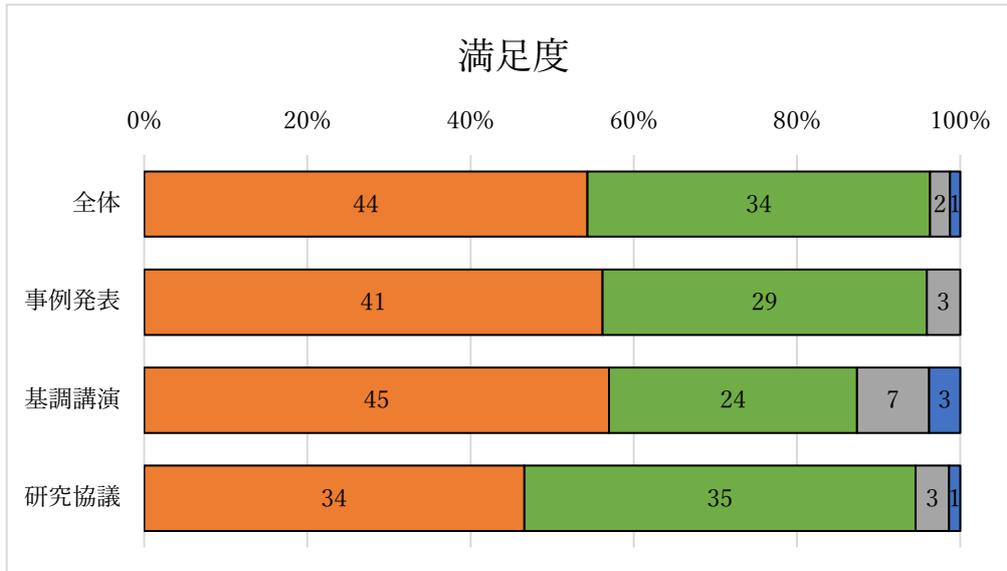
※閉会時の時間がおしたこともあり、回収率が低調に終わった。

主事会協議会事業として、改善のための意見表明を行う意識を強くして欲しい。

1. 内容について

(1) アンケート結果

①満足度 (左から とても満足した・概ね満足した・あまり満足しなかった・満足しなかった)



※ほとんどの項目でポジティブな回答(とても満足した・概ね満足した)が90%を上回った。基調講演も87.4%。

②自由記述

【1】事例発表についてのご意見・ご感想をお書きください

- ・他市町村のいまの取り組み、工夫、課題対応を聞くことができた。聞けなかった事例も、資料を見て確認したい。
- ・発表者の熱意が伝わって良かったです。
- ・コロナ禍の中でも実践をひたむきに積まれた皆様に経緯を持ちました。
- ・事例発表自体はとても良いが、テーマにあった事例を探すのが大変そうだった。
- ・白老町の発表がわかりやすく、とても参考になった。
- ・各市町村の状況や取り組み、管内ごとの方針などがとても参考になり、自分の町に持ち帰れる材料が多かった
- ・気になる発表を選ぶ形式なので強い興味を持って聞くことができた
- ・どこの市町村も悩みを抱えながら頑張っていることを改めて感じる機会となりました。
- ・選択制で見ることができて良い。
- ・自分の興味のあるところを聞きに行けるシステムはとても良かったです。なぜなら、会場内を動くのでワクワク感や脳のリフレッシュにもなるためです。
- ・選択方式だったことから、抱えている課題に合った事例を学ぶことができて良かった
- ・会場が少し狭かったように思います。もう少し発表数を絞って、みんなで共有できて良いのではないかと思います。
- ・内容はとても満足しましたが、会場が少し狭かった。
- ・皆さん発表が上手くて聞きやすかったです。芦別市の高校生カフェの話、上ノ国町のスポーツイベントの話などもっと聞きたい内容でした。コロナで座席を減らしているため、立ち見で参加した時間帯もありました。早く座席の制限が無くなるとういなと思いました。
- ・事例発表の色々な選択肢があり、自分の参考にした事例を聞いて良かった。

- ・事例発表の内容は、それぞれの地域事情はありつつも参考になるものと感じた。3ブロックの発表の時間帯は、新型コロナ対策のため席制限もあって、人が集中して聞きたくとも入れない時間があった。
- ・他の発表の概要でもよいから知りたい
- ・すべての分科会へ出席しておりませんが、とてもよく準備をされて望まれているなど感じました。また、参加者からも質問や意見もたくさんありました。どれも、各市町村が聞いてみたい、真似してみたい事例ばかりだったと思いますね。
- ・様々な担い手育成のための取組みについて学ぶ事が出来た。自分の町にも参考に出来る事が多くあった。
- ・自分の業務への落とし込みの参考になりました。
- ・本町で実施している事業に類似した事例発表を聴講し、参考にできる点が多かったです。
- ・他地方の取組みについて知ることができ、自分の担当する事業の見直しにつながった。
- ・各市町村の具体例を聞いて、自分の町でも取り入れたいと思うことがたくさんあり、とてもためになった。
- ・発表市町村すべてに配布用のパワーポイント資料があると、聴講市町村を選定する際に比較しやすかったと感じる。
- ・新たな取組み（分散発表）への挑戦に敬意を表します。しかし、見たい発表が被った場合見れないのは残念でした…それを解消するアイデアがあるならいい取組みだと思います。また、仕方がないことですが会場の座れる人数にキャパに限りがあるので、もう少し広い会場があれば、なお良しだと思います。
- ・発表時間が短いように感じた。もう少し長くてもいいのではないのでしょうか。
- ・発表者であったため、他の事例発表を聞いていても、時間配分ばかり気になり、上の空であった。発表も、資料を作ったことで満足してしまい、練習不足を痛感した。反省点ばかりの事例発表であった。
- ・私が聴いたどの事例も素晴らしい取組みで参考になるものばかりだった。
- ・他の市町村の事業と自分の事業を比較することで、課題や改善点が見つけられるので良いと感じた。

【2】基調講演についてのご意見・ご感想をお書きください

- ・対談が大変良かったです。アダム・スミスの本をその場で注文しました。目先の課題だけではなく、広い視点で捉えることが大切と感じました。
- ・対談ではなく、それぞれで話を聞きたかった。質問に答える形式はよいが、話が飛びすぎて、答えがよくわからない。
- ・先生方が話したい事だけではなく、社会教育に携わる人が困っていること悩んでいることを中心に意見を交わしておりとても有意義な時間でした。
- ・質問に答えると言った割には、自分の話したいことを話していたように感じた。もっと呼んだことのない講師を連れてきていただき、新たな視点を取り入れたい。
- ・社会教育の意義について改めて考えることができた
- ・社会教育のあるべき姿について考えるいい機会となった
- ・自分の中で社会教育に対する新たな視点での考え方ができるようになった。
- ・基調講演では、今までにない視点に気づかせていただいた。
- ・社会教育の衰退等の話を聞き、危機感を抱ききっかけとなった。また、「地域の担い手」と聞くと、青年や若い世代のことを表すと感じていたが、講演を聞き、高齢者も地域の担い手となることを改めて認識させられた。
- ・危機感を持つことが大切であると改めて感じました。ありがとうございました。
- ・センセーショナルで新しい視点を学べた。
- ・基調講演は普段聞かない切り口からの社会教育についてだったので新鮮だった
- ・山崎さんの話はすごく参考になりました。
- ・山崎さんの話に共感出来るところが多々ありました。
- ・山崎さんのお話をもっとお聞きしたかったです。社会教育と経済がこんなにも関係しているとは思っていなかったの、これからはその視点を加えて社会教育について学んでいけたらと感じました。
- ・ウェルビーイング=いい感じがしっくり来ました
- ・社会教育行政では、なかなか出ない視点での社会教育を聞くことができた。聞く側の立場や年齢、経験年数などで受ける印象が変わる内容だったかと感じました。
- ・経験の少ない者には、日常との関連付けが難しく感じました。
- ・レベル、年数によって、捉えが難しいこともあるが、2年目から5年目の人に話をしたが、方向的には新たな発想として捉えていたようだ。
- ・内容が少し難しく、入りづらかった

- ・内容が難しく、理解が追いつかないところもありましたが、目から鱗のご意見でした
- ・タイトルからは想像もつかない展開だったが、資料もない中でメモを取りながら講演を聞いたので、理解が深まらずに残念だった。しかし、普段の事業を俯瞰する必要があると考えを改めるいい機会となった。
- ・大変貴重な講演だったとは存じますが、経験年数の浅い職員には難しかったと思います。当方は序盤ほとんどなにもわかりませんでした。
- ・講演内容の後半部は急進的で、現実的なものでなかったです。それゆえ若手職員は混乱しているか、意味が理解出来ず苦慮していました。あの場面では講師との意見交流が必要でした。なぜそうしなかったのか？ 主催者側が前例踏襲したのか？あのような聞きっぱなしの講演であれば、講師選定に間違いがあったのではないのでしょうか？
- ・資料も無く、少し聞き逃してしまうと論点が何かわかりにくく感じた。
- ・最初は何を言っているのかよくわかりませんでした。しばらく聞いているとじわじわと話が入ってくるのかもしれない。でも、とても新鮮でした。ああいう話もたまには刺激になるので良いと思います。最後、社会教育は負けているという言葉はとても強烈でしたね。
- ・とても興味深い話が聞けました。私自身、担い手育成＝若い人ではなく、高齢者の後継者が高齢者でもいいのでは、と以前から思っていたのですが、高齢化は問題ではないとはっきり言っていただいて、自分の考えは間違えではなかったとすっきりしました。また、社会教育は商業主義と戦うという視点が今までなかったのが新鮮でした。時間が短かったのだけが残念です。分科会も必要なもので、時間配分が悩ましいと思いますが、対談であれば2時間欲しいと思いました。
- ・高齢者は先輩で担い手になりえる。商業主義からの脱却など印象に残る言葉が多数あり、社会教育の危機感を再認識したため、対話を通したつながりの大切さを学んだ。
- ・お二人のお話から学ぶことが多くあったなと思いました。オンラインへの対応や、高齢者も担い手になるという新しい視点は町に戻ってすぐ共有したいと思いました。
- ・学術的なことに踏み込んだ説得力のある面白い講演でした。1時間半しかなかったことが物足りないと思いました。今度はもっと長くお話を聞いてみたいと思っています。
- ・社会教育を考えるにあたって、主事講習で習ったことを一気に総復習した気分になると同時に新しい考え方や知識に触れ、とても考えさせられました。
- ・商業主義や資本社会に負けない社会教育の大切さを改めて考えさせられた。
- ・他の趣味に勝るような社会教育にしなければならないと思いました。
- ・最初はなんてスケールの大きい話なんだと思ったが、次第に現状の課題を理解することができ、自分が今できることや、自覚を持つことができた。
- ・話の内容は少し難しかったのですが、商業主義からの脱却という新たな視点が、とても勉強になりました。またお二方のお話を聞きたいです。というか、聞き足りなかったです。うちの職場の職員にも聞いてほしい内容だと感じました。
- ・商業主義によるつながりの断絶という現実に危機感を強めた。明日からの具体的な行動をイメージすることの重要性を認識した。
- ・社会教育について改めて考え直すきっかけとなりました。商業主義と社会教育の関係など、数々の視点や考え方が知れてとても勉強になりました。最初から最後まで全く飽きることなく話を聞くことができました。
- ・とても面白く、興味深く聞かせていただいた。
- ・テーマが定まっていないように感じた部分もごさいますが、参考になるお話を聞かせていただきました。
- ・講師の話は、考えを改めさせられるものが多く大変勉強となった。また、LINEのオープンチャットを利用するといった運営手法も学ぶことができ、参加して良かった。
- ・書ききれないほど刺激を受けたので、頭と心に刻んでおきます。
- ・一般事務が、社会教育を学ぶには、熱かった。でも、社会教育が少し解ってきた気がしました。
- ・当初は、こんなに考えさせられる講演とは思っていなかったため、真剣に聞いていなかったが、お二人の率直なお話は、社会教育に携わる行政職員として、考えさせられるものであった。消滅の危機にある自治体として、がむしゃらに社会教育に取り組んでいないことを痛感させられた。教育長をはじめ、社会教育に携わる職員や社会教育委員にも聴いてもらいたいの、ぜひ、アーカイブ配信をしてもらいたいです。
- ・「地域の定義」など日頃深く考えないようなことを深掘りして考えることができた。

【3】研究協議についてのご意見・ご感想をお書きください

- ・実践発表や基調講演を軸にみんなで話し合いができたのはとても良かったです。さまざまな市町村の実践が聞けて楽しかったです。

- ・吉田先生と山崎さんの対談を受けての内容であれば、明日から何をやるべきか宣言させるくらいの勢いでないと、プログラムとして、整合性がとれない。
- ・対面のメリットを強く感じました。
- ・久しぶりの対面は楽しかったです。リモートでも分科会できますが、複数人が同時に会話をするのが難しいので、意見交換が難しいと感じていますので、今後なるべく対面形式でお願いします。
- ・とても話しやすいメンバーが集まり、さらに話しを深めたかった。時間が短く感じました。
- ・アイスブレイクもなく話を進めることに戸惑いましたが、二日目、それぞれの実践がバージョンアップされていくことが感じられました。
- ・対面は色々な意見が楽しいです。
- ・久しぶりに対面での協議、交流ができ満足でした。
- ・コロナ禍で大変ですが、このような場を多く設けて欲しいです。
- ・分科会の話し合いに参加したかったです。
- ・他の市町村の職員と対面する機会はとても新鮮でした。オンラインにはない、実になるものがあり、とてもよかったです。
- ・他の職員の方の経験等を共有し、協議することができたので、自分の事業の取り組み方に活かせると思った。
- ・それぞれ話したいことが多く、楽しく有意義だったが時間が足りなかった。
- ・もう少し時間があると嬉しいです！
- ・各地区の担当者と意見交換できたことがよかった。参加者全員に伝わる Zoom では、なかなか話しづらいことも、隣に座られた方とだけ話せる環境が聞きやすく、改めて交流が良いものだと感じました。
- ・1年目で、1日目のみの参加者でしたが交流等を含めて先輩方のたくさん意見等をきけて良かったと思いました。
- ・社会教育行政職員としての悩みや課題を共有する事により、事業の見直しやアドバイスがあったため今後に生かしていきたい。
- ・ワークショップでは、自分の意見を出す、合意形成を行う等考えさせられることが多かった。普段仕事の見直しをすることが少なく、仕事の意義について考える良い契機となった。
- ・協議のテーマが大きかったことから、話をまとめるのが難しかったです。ただ、グループ員と協議できたことや、各グループの発表を共有できたことは新たな気づきになりました。
- ・ワークショップの中身が少し不透明だったように感じます。もう少し統一感をもったワークショップだと、それぞれ分科会の成果がわかりやすいかなと感じました。
- ・何かを作り上げる内容よりも、今回のような交流メインのグループワークの方が有意義な時間になると思う
- ・交流がメインということで特に構えることなく話しができた。各グループの発表を聞き、進行役の捉え方によって協議内容が異なるように感じた。(どれもセミナーに関わるものであるが、基調講演の内容であったり、普段の事業の課題や悩みなど)
- ・交流ができてとてもよかったです。もう少しいろんな方と交流できたらなと思いました。
- ・研究協議テーマが緩かったので基調講演とやや離れてしまった。やはり、情報交換や交流がメインとなるというのは全道規模の大会ではなくブロックレベルで十分だと思う。基調講演を踏まえて議論を深めるべきだったと思う。
- ・普段かかわることのない他市町の方と、対面で交流ができてとてもよかったです。他の方の発想や意見を聞くことで自身の感覚を磨くことができている感じがします。
- ・せっかく全道各地から職員が集まっているので交流の時間を多く設けてほしかった。分科会のグループ組みも、2回あると良かった。
- ・人口規模が近いということで、おおよそ同じ環境にいる方々とグループワークができて良かった。交流がメインということであれば、2日間でメンバーの入れ替わりがあっても良かったと思う。
- ・事例発表、基調講演の直後の話し合いなので、意見も出しやすかったです。他市町村の方々と対面でグループワークをするのは久しぶりだったので楽しくできました。出された事業が自分のまちでもやっていて、同じ課題があったり、違う工夫があったりで、参考になりました。ここも時間がもう少しあるといいなと思いました。他のグループの発表に対して質問や感想を言うような時間が取れると、他グループの人と話す機会も増えたかなと思いました。
- ・各市町村における課題についてそれぞれの参加者が意見を出し合う方法は、特に経験年数の少ない職員にとっては、参考になるものだったのでは。
- ・最後の講師の総評が全てだった。
- ・次世代育成。次世代、世代が区切られる言葉ですが、継続したつながりのある持続性のある人材育成が大切か

など思いました。

- ・ここでも他地域の実例を聞くことができ良かったが、社会教育課経験年数が同じような人と同じ班だったが、年齢が上の方ばかりだったので、そこだけ少し気になった。

【4】全体を通してのご意見・ご感想をお書きください

<実施方法>

- ・やはり、研修会是对面がいいと感じました。実際に席を並べることでささいなことも質問できたり、共有できたり、とても良い時間を過ごせました。
- ・久しぶりの対面開催で、とてもいい雰囲気、研修できました。ウェブでは難しい細かな対話、1つのテーマでの意見交換ができた。効率化を求めるご時世のため、移動時間に対して否定的ですが、その時間も含め、一同に会するメリットを感じました。
- ・Zoomの中でしかお会いしたことのない方と言葉を交わせる機会がとても有意義でした。
- ・他市町村の事例などたくさん聞けて勉強になった。事例発表で時間の都合上聞けなかった発表について、動画配信やパワポ配信で見られるとありがたいです。
- ・オンラインにて講演のみ参加しました。別の公務のスケジュール上、会場に出向いて研修すべてに参加することが難しかったので、講演のみでも参加する機会をいただき、感謝しています。今後の研修会等でも同様の参加方法を受け付けてくださるとありがたいです。
- ・セミナー参加の予算確保が厳しいという状況を踏まえ、遠方でも1泊2日で参加できるようスケジュールを組んでもらいたい。(1日目の開始と2日目の終了を遅らせるなど)
- ・2日目が12時に終了するのは、短いと感じた。
- ・久しぶりの対面形式は、周囲の熱量に触れることができ、また、意見交換もできとても良かったです。
- ・ペーパーレスということだったので、事前に資料は印刷しましたが、ほかの資料の確認等をしたかったので、当日会場にwi-fiがあればありがたいです。
- ・施設の都合で難しいとは思いますが、インターネットを介した資料共有を行うのであればwi-fi環境があった方が助かります。
- ・今回のセミナーは4年間の研究テーマのまとめの年だったと思います。基調講演で講師の吉田さんが「社会教育こそオンラインを活用すべき」とお話していたと思います。主催者の職員の人数や会場の条件などがあり、ハイブリッド開催をしながら、内容を充実させるのは難しいと理解しますが、事例発表のライブ配信やオンライン参加者同士の分科会などは検討されたのでしょうか。特に、オンライン参加者は最後のまとめ、次年度の研究テーマ発表を聞くことができず、これまで研究テーマについて話し合ってきたのはなんだったのか。というのが正直な思いです。それらの資料よりも先にアンケートを送られても、研究テーマに沿った基調講演だったかも判断することはできません。大変失礼な書き方になってしまい、申し訳ございません。次年度からの研究テーマに向けて、研修の機会にも積極的に参加していきますが、札幌に行きづらい距離でもありますので、1意見としてご検討いただければ幸いです。

<内容・運営>

- ・これからの社会教育が成すべきことを見直す良い機会となりました。ありがとうございました。全体を通して役割を担った皆様お疲れ様でした。
- ・事例発表や分科会は、とても有意義でした！
- ・コロナ禍で遮断された各町職員との交流ができてよかった。
- ・危機感、人と人とのつながり、社会教育の役割 について協議できて良かった。
- ・基調講演は強烈ではあったが、新鮮味のある内容でした。また、久しぶりの対面でのセミナーの開催素直に嬉しく思いました。
- ・社会教育についての新たな視点や市町村の方々の考え方を色々聞くことができ、勉強になりました。
- ・3年ぶりの対面で、他の市町の事例を知ることができ、とても勉強になった。特に、高校生がふるさと納税返礼品企画開発を行い、地域づくりを行う取り組みが魅力的だった。
- ・久しぶりの対面開催で、いろいろな人と再会できました。近況報告や、各管内の発表、基調講演などからものすごく刺激を受けました。やはり自分の町にいただけでは、足りない部分がなかなか見えてこないなと思いました。運営お疲れ様でした。次年度も異動がなければ参加させていただきます。
- ・今回の趣旨である交流ができたことが、とても良かったです。対面での研修会の良さを改めて実感しました。
- ・スケジュールがタイトなため、移動時間に余裕が無かった。(トイレ等によると席が無いなど)
- ・吉田先生、牧野先生から、今のままじゃダメだ、こんな研修会じゃダメだ、という愛のむちを受けて魂に火が

ついた。私たちはもっと本気で、やるべきことを探し追究しなければならない。この会を通して私は、もう甘えない、やりたい、やる、と心に誓った。

- ・事例発表、基調講演ともに貴重な話が聞くことができました。基調講演の商業主義と戦う、高齢化が問題ではないなど、気付かされるものがたくさんありました。初めに基調講演、次に事例発表のほうが、セミナーの全体像がわかりやすい気がしました。分科会では、zoomやメールでしかやり取りしていなかった人と対面できてよかったです。
- ・主催者の尽力で円滑に運営されたと思います。
- ・学べるものが多くあり、他の町村の方々と交流する機会が多かったため、大変貴重な経験となった。
- ・充実した内容、特に事例発表と研究協議でした。3年ぶりだから余計そのように感じたかもしれませんが。
- ・社会教育の現状とこれからについて学ぶことができた。
- ・1年目で吸収できることが多くとても参考になりました。社会教育主事が発令された際には先輩方のような考え抜かれた社会教育事業を行ってみたいと思いました。
- ・久しぶりの対面での交流となり、グループワークでは対話を通して議論が出来たため、理解が深まった。
- ・経験がまだ浅いためとても参考になりました。
- ・他市町村の事例を知ることができたこと、交流ができてよかった。
- ・とてもモチベーションが上がった研修でした。
- ・運営お疲れ様でした。久しぶりに皆様に会うことができて大変満足しました。ZOOMでの会議は情報の伝達や交換には向いていますが、交流や人間関係を作ることが難しいと感じています。今回のセミナーで実際に会って、刺激しあい、交流する意義を実感しました。色々な問題があるとは思いますが、社会教育は対面での活動再開の先陣を切ってほしいです。
- ・普段話せない管外の担当者とは話すことができよかったです。
- ・今回、久しぶりの対面での研修ということもあり、逆になれないところもあったが大変充実した時間を過ごすことができた。
- ・基調講演、発表、分科会など、久しぶりの対面で得られるものが多かったと思う。
- ・基調講演のみの参加でしたが、とても勉強になりました。
- ・事例発表も分科会も、わが町と比較したり、参考になる話しが聞けて、日々の事業へ反映させたいです。社会教育とは、地域づくりとの話があり、少しモヤモヤしていた感じが、そうですよねと心に落ちました。
- ・久しぶりに集まってのセミナーであったことで、対面で話すことの重要性を再確認できた。雑談の中にヒントがあり、勉強となるセミナーであった。ただ、参加者がコロナ禍前より少ないことが寂しく感じられた。オンライン配信を行っていたが、基調講演は社会教育に携わる職員全員が聴かなければいけない内容と感じた。特に、教育長、部長、課長などに聴いてもらいたい。
- ・他の市町村職員や社会教育主事の方と交流する機会が初めてだったので、良い機会となった。

【5】本セミナーに参加して、大切だなと感じたことやこれから実践したいことは何ですか

- ・人と人を繋げることの重要性を改めて感じる機会となった
- ・今一度、人のつながりを大切にすること。教育という範疇にとらわれず様々な分野へ目を向けて可能性やアイディアの幅を広げていきたい。
- ・人と人との関係性（つながるような仕組み）の構築
- ・業務であるかを問わず「つながりが失われている」ということについて一人でも多くの人と話していきたい。
- ・改めて、地域につながる何がより大事なことだと再認識しました。
- ・社会教育の目的が地域づくり、人とのつながりづくりであるとするならどのようなようにつながりを作り、社会参画につながっていたことに気付かせるかが重要なのかなと思いました。
- ・地域の絆づくりをもっと意識して、田舎でも生きていける人間関係作りにつながる社会教育事業を行う。高齢者の社会減が多いので、そこを食い止められるような事業を構築する。
- ・地域の人によりつながりやすい事業やコーディネートを意識していこうと思います。
- ・社会教育の基本はやはり人との関わりだと再認識しました。これから何を実践したいかというところでは、コロナ禍で負ったダメージを回復させることと、地域学校協働活動の充実でしょうか。
- ・どんな環境と時代になろうと、人、まちづくりが、つながっていけるように。たくさんの学び繋がりをつくって行きたいです。
- ・今だから、つながりを社会教育が守るべき・社会教育は古くて新しいということ
- ・聞き取った情報を踏まえてつながりを再構築できる事業展開に結び付けたい。
- ・公民館改革

- ・メインテーマが長すぎると感じました。ぱっと見て伝わらない、何回も読み直さないと理解できないのでは、どうなのかと思います。サブテーマを管内で設定できることは、実情に沿った研究につながるため、いいと思います。
- ・対面で、参加している方たちの様子が全体的に分かるのが良いと思いました。他のグループの様子や話し声からインスピレーションが湧くこともあるなと感じました。
- ・オンラインは、移動距離に関係なく参加はしやすいが、やはり対面の方が相手のリアクションが伝わりやすく感じた。また、懐かしい方々と久々に会い情報交換ができ、今までの活動が現在に続いているものと実感した。主催者や関係者の皆様、新型コロナ対策等もある中でお疲れ様でした。そして、ありがとうございました！
- ・視点というキーワードが印象に残りました。社会教育行政の役割と可能性を意識しながら実践していきたいと思います。
- ・直のつながりの価値を再認識できる事業の展開
- ・お題があつてのフリートークのコマがあつても良いと思った。
- ・これからはアフターコロナ。早く元の暮らしを取り戻し、社会教育を盛り上げたいと思いました。
- ・社会教育はやってもやらなくても良い仕事ではなく、地方創生に成果を出さないといけないと感じた。黒子としての役割も含めて。
- ・商業主義からくるコミュニティの分断を、今後社会教育で立て直す必要を実感しました。
- ・学習機会の提供の意味について考えることができた。壮大な話でめげそうなところもあるが、できるところから着手していきたい。
- ・ただ業務をこなすだけではなく、良い社会にしていけるように社会教育を使い、まちづくりに貢献していきたい。
- ・何のために事業をするのか、常に考えて行動していきます。
- ・2日目の最後に吉田先生がおっしゃったように、セミナーで学んできたらずぐに実行することが大事だと思いました。私の担当業務で、実行委員会の事務局を市教委で持っているものがいくつかあり、行政任せになっていたり、担い手がいなかったりと課題が多々あります。行政は状況を把握し、目的を明確に示しつ、住民と一緒に作り上げるために何が必要か考えていきたいです。また、学ぶことが楽しい、チャレンジしてみたいと思える社会にするには何が必要か、アンテナを張って情報収集し、フットワーク軽く動けるようになりたいと思いました。
- ・危機感をかんじながら進めていきたい。
- ・高齢者の活かし方人とのつながり
- ・高齢者も地域の担い手としてとらえること
- ・担い手育成のためには、まず参加者として楽しんでもらう事や主体的に参加してもらえる取組みについて、整理する必要があると感じた。
- ・ウェルビーイング。いい感じ。な社会教育を心がけてみます。
- ・まずは担当者が社会教育事業を楽しむ事だと思います。
- ・熱意をもって活動を続け、考え続けること。
- ・ICTの推進を社会教育が率先してやるべきだと感じた。
- ・事例発表では、他の自治体の取り組みを知ることができ、実践できることや参考にできることなどを知ることができたので、来年度からの事業のためこれから話し合っていきたいと思った。
- ・いろいろな取り組みを聞いてまずはよかった。自分の町にどのように取り入れていくのか、実践となるとなかなかうまくいかないこともあるが、前向きに考え、やってみることが大切。町民が講師となるまちの先生のシステムはとてもいいと思います。本町でも実践したい。
- ・社会教育行政を離れることがあつても、地域を思う気持ちがあれば、どんなところでも社会教育を行えることを意識します。
- ・参加者が若いと感じました。今回は事例発表者だったので、参加しましたが、次は部下に参加してもらいたいと思っています。ただ、基調講演だけは聴きたいので、アーカイブス等の配信は行っていただきたいです。
- ・時代が変わっていく中で、様々な問題がでてくるため日々試行錯誤しながらこれからの社会教育行事に取り組んでいきたい。

(2) 成果と課題

セミナー全体を通した満足度は、96.3%の参加者が「満足」又は「やや満足」と回答しているが、回収率が低調なため、参考としての分析となるため、記述から今後の参考となる部分を考えていく。

今回のセミナーでは、近年の参加者の経験年数の浅さを考慮しつつ、コロナ禍の3年間に、各市町村・管内で悩みながら取組を進めてきた仲間たちの事例を知りながら、「交流」をとおして自分たちの取組を見直し、今後の新たな一歩を踏み出す集まりとすることを中心に設定した。

記述には、当然、賛否があるが、「各事例が参考になった」「対面での交流・学びに効果があった」「新たな気づきがあった」など、経験年数をカバーするための交流や実際の活動についての事例発表が学びになったことが見て取れる。基調講演についても、社会教育行政やるべきことや「商業主事」「高齢者」「良き社会」といった、考えていくべき視点を得たという記述が見られ、一定程度の成果があったと考える。

次年度以降も、参加者の経験が浅い状況や社会状況の厳しさは変わらないことが想定されることから、基礎的な理解を深める内容や全道の取組交流を含めた学び合いの場をつくりながら、全道の仲間がつながりながら社会教育を振興していくことが求められる。

研修会の持ち方については、会場・機材繰り等の関係もあり、基調講演のみの配信として実施したが、オンラインツールを活用しながら、札幌に来ることができない人たちが参加しやすい状況づくりを進めていくとともに、対面での効果的な研修について検討していく。

また、ペーパーレスでの実施については、Wi-Fiがある方が資料を参考にしやすいという声もあり、環境整備についても検討するとともに、資料をHPにアップする期間を長くすることで、事前にダウンロードして準備しやすい状況になるように改善を図る。